

4.6-3

放射線総合センター

徳島大学ではこの10年間、RIを使用した研究や実験の減少とともに、学内の5施設を廃止してセンターと病院（実験動物用PET/CT施設を含む）の2施設とし、学内におけるRIを用いた研究拠点とします。学内におけるRIを用いた研究拠点とします。2016（平成28）年度よりアイソトープ総合センター（Radioisotope Research Center）から放射線総合センター（Advance Radiation, Education, and Management Center）へと名称変更し、センター業務である放射線業務従事者の教育訓練、放射線の啓蒙活動、放射線安全管理、研究支援・研究開発を体現できる名称となっている。また、老朽化したA

棟、B棟の改修及び教育訓練棟の増築を行い、2007（平成19）年度に行った六面点検が行える地上型の貯留槽の設置とともに、機能的で近代的な施設へと生まれ変わっている。改修では、20名が教育訓練を受講できる講義室と非密封放射性同位元素を使用した安全取扱実習に対応した教育訓練実習室が整備され、年間100名前後の利用者がRIを用いた研究を行っている。さらに、2012（平成24）年より、医学部設置の実験動物用PET/CTのオペレーションと放射線安全管理も加わり、RIを用いた分子イメージングを展開している。



放射線総合センターでは、1年を通して希望者の申込を受け施設使用のためのオリエンテーションを行っている。

他に月1回のマンスリー放射線講座、5～6月には前期新規教育訓練、7～8月はサイエンスクラブ放射線やファミリーサイエンス教室と教員免許講習「身の回りにおける放射線」の実施、10～11月には後期新規教育訓練、12月はセンター利用報告会、2～3月に再教育訓練を教職員6名で行っている。

また、施設の見える化を図り、利用者により安全で安心してRIを使用できる施設を供するよう日々努めている。

